



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	月刊DRF 第35号増刊号
Author(s)	デジタルリポジトリ連合; Digital Repository Federation
Description	事務局: 北海道大学附属図書館 http://drf.lib.hokudai.ac.jp/ で公開したもの
Issue Date	2012-12-14
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73586
Type	journal
File Information	DRFmonthly_35s.pdf





【特集】2012年 10大ニュース



Coming soon:

- Greek
- Italian
- Japanese

If you would like to translate the Re



パブリックコメント



©Ministry of Internal Affairs and Communications

2012年 10大ニュース!

今年も色々ありました。
左の写真を見て「これはなに？」と
思った人は、次ページへ!



【公開件数100万件突破】

今年は、国内機関リポジトリ全文公開件数が100万件突破の節目を迎えました（6月1日）[月刊DRF 第30号をご覧ください]。ここに至るまで努力を重ねてきた関係者の皆さまに、改めてお祝いを申し上げます。

機関リポジトリのさらなる発展に向けて、DRF では**様々な事例の共有**を行っています。Open Access Week（10月22-28日）での取組 [月刊DRF#34]、例えば神戸大学の論文登録用の抜刷連絡封筒 [メーリングリスト drf:3386] や、図書館総合展 DRF9（11月21日）での事例報告 [月刊DRF#35] などを参考に、各機関で生み出された**良いアイデアはどんどん活用**して行きましょう。

各アイデアの実施件数については、「『お願い!! これらをやってる大学の人、返事ください』報告書」（11月26日）[drf:3434] にまとめられています。ダウンロード件数の通知サービスや、広報グッズに取り組んでいる機関が多いようです。



【人材育成を今年も】

機関リポジトリの業務は、印刷資料を中心とした従来の図書館業務と比べてコンテンツの流れは逆であり（内から外へ）、**教員との関わり方もまったく異なります**。この新たな業務課題に取り組む人材を育成するため、DRF は昨年に引き続き NII との共催により、機関リポジトリ中堅担当者研修（9月26-28日）[月刊DRF#34]、新任担当者研修 第1回（8月23-24日）、第2回（9月6-7日）[月刊DRF#32、#33]、第3回（10月18-19日）を開催しました。

また、中堅担当者研修では新たな取組として、英国の担当者支援組織 RSP を参考に、民間企業向けの研修プログラムを導入しました。**専門家によるコミュニケーション・スキル講習**のコマは、研修生から好評を博しました。

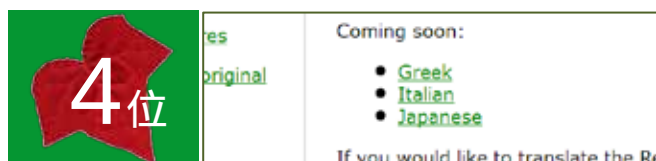
これまで DRF の人材育成を財政的に支えてきた CSI 事業は今年度で仕切り直しとなります。NII の皆様、ご苦労様でした！（そして次の段階（新委員会）へ！）



【RSP & UKCoRR との覚書締結】

英国の2つの IR 担当者コミュニティと連携協力の覚書を取り交わしました (1月19日) [月刊DRF#25]。
 図書館総合展 DRF9 (11月21日) では UKCoRR から Dominic Tate 氏 (Royal Holloway University of London) を招聘して英国事情パネルディスカッションを開催したほか [月刊DRF#35]、DRF 企画 WG ではオーストラリアのコミュニティ CAIRSS から Peter Sefton 氏 (University of Western Sydney) を招聘してコミュニティ運営に関する意見交換を行いました (12月5日)。

今年は、機関リポジトリ推進における担当者**コミュニティの有効性と普遍性**を確信した年となりました。



【翻訳してみ隊の活躍】

動きの速い海外情報を追いかけるため、ボランティアを募って結成しました [drf: 2881]。海外の事例を見ていくと、例えば教員アドボカシーで日本とまったく同じ場面が展開されていたりするなど、**思わぬ共感を覚える楽しさ**もあります。みんなで翻訳範囲を分担し、アドバイザーの先生方に助けてもらいながら、少しずつ進めています。興味のある方は、ぜひお申し出ください。

今年は主に以下の文献の和訳英訳に取り組みました。

- Richard Poynder 氏が blog「Open and Shut?」に掲載した Research Work Act に関する Alicia Wise 氏 (Elsevier) の質疑応答記事 (2月ごろには、ボイコット運動もありました)
- 月刊DRF 6月号の英訳 (COAR 年次集会、名寄せ特集 [月刊 DRF#29 英語版])
- BOAI10 宣言文 [和訳]
- UKCoRR 教員アドボカシーでの質疑応答11問



【海外での日本事情紹介】

ICTK2012@バンガロール (インド、7月11-13日) に、阪大の土出郁子さんが招聘され、日本の事例紹介を行いました [drf:3164]。**DRF が海外から依頼を受けて発表**するのは初めてのことであり、記念すべき第一歩です。

この他、国際組織の年次集会を中心に、DRF 関係者が世界に向けて日本の取組状況を紹介した一年でした。

- COAR年次集会@ウプサラ (スウェーデン、5月21-22日) [月刊DRF#29]
- OR2012@エディンバラ (7月9-13日) [月刊DRF#31]
- ICOLC欧州会合@ウィーン (10月14-17日) [月刊DRF#34]



【DRF facebook 公開】

定式に囚われない自由な意見交換の場を提供するため、7月から開始しました。DRF の公式 facebook [URL] ではありますが、ここで交換される意見は必ずしも DRF の公式見解ではありません。けだるい雰囲気のカバー写真と、バージョンが 0.9β であるところから、その意図をなんとなく感じ取っていただけるでしょうか? え、無理? やっぱり?

まずは思惑も明示しないまま公開してどうなるか、SNS の感触も含めて様子を見守っています。今のところは時事記事が中心となっていますが、ある日突然、深~い議論が沸き上がってくるのか、乞うご期待!





【BOAI10 宣言】

9月12日に、新しい宣言が公開されました [月刊DRF#34]。
最初の BOAI が宣言されたのは、10年前の2002年になります。10年間の経験を踏まえた新たな宣言では、副題として「setting the default to open」と掲げられました。

国内では、岡山大学（2011年11月16日）[drf:2811] に続いて名古屋工業大学（2012年10月）[drf:3326] が原則義務化を決定し、**「default」が浸透**し始めています。



【フィンチレポート】

今年は政策面での動きも目立ちました。
フィンチレポート（6月）[月刊DRF#33] は、英国の内政方針に関する答申ではありますが、出版業の印刷複製独占権（copyright）は英国王の勅許で始まった経緯からしても、電子時代への本格的対応に世界の注目が集まるのは当然の成り行きでしょう。

日本では、「第4期 科学技術基本計画」（2011年8月19日 閣議決定、計画期間：2011-2015）に機関リポジトリが明記され、その具体策として「学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について」（7月、科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会）が示されました。さらにその英訳版を世界に発信したのは、画期的な事件でした（10月）[drf: 3333]。

【次号予告】1月号 新年のご挨拶

月刊 DRF 読者アンケート受付中！

http://drf.hokudai.ac.jp/gekkandrf_inq.html

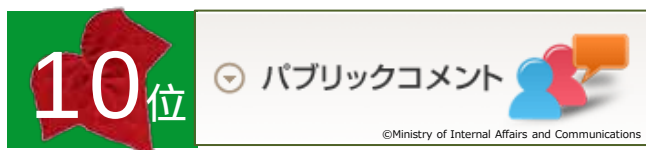
月刊 DRF では、みなさまからのお便りをお待ちしています。
gekkandrf@gmail.com



【OA ジャーナルの新たなモデル】

因習に挑戦するビジネスパーソンの参戦によって新たなモデルが具体的に動き始めたのも、今年のニュース。

- PLoS ONE: SPARC Japan セミナー（平成23年度 第5回、2月29日）[月刊DRF#26 増刊号] で紹介され、登壇者のなかで唯一 APC の将来値下がり見通しを主張していたのが印象的でした。
- eLife: こちらも SPARC Japan セミナー（平成24年度 第4回、8月23日）[月刊DRF#32] で紹介され、11月13日に刊行が開始されました。想定されていた HighWire からの雑誌創刊号としてではなく、本来はアーカイブである PMC（PubMed Central）から論文4本が公開され、周囲を困惑させました。
- PeerJ: 格安の生涯有効 APC 前払料金で話題を呼びましたが、いよいよ投稿受付が開始された模様です（12月3日確認）。



【学位規則パブリックコメント】

学位論文の電子化対応については、学術情報基盤作業部会にて検討が重ねられてきましたが、10月5日の第62回中央教育審議会大学分科会大学院部会にて議題に取り上げられ、11月30日に学位規則の改正案に関するパブリックコメント [URL] が実施されるに至りました。
コメント締切は1月4日です。
日本初の国レベルでの義務化に向けた動きですので、前向きに取り組んでいきましょう。

Facebook はじめました。

<http://www.facebook.com/DigitalRepositoryFederation>



月刊 DRF <http://drf.hokudai.ac.jp/gekkandrf>

月刊 DRF 第35号増刊号 平成24年12月14日発行
デジタルリポジトリ連合